

I 生涯教育事業

* 定期公開講座

* 自主講座

* 語学講座

* 開放授業

* 市民講座

* ひらめき☆ときめきサイエンス

平成 27 年度 定期公開講座カリキュラム

地域研究センター設立 10 周年記念 定期公開講座

*全体テーマ **地域からリスクと文化を考える**
—戦争・犯罪・異文化理解・災害の観点から—

講義	日 時	講 座 演 題	講 師
第 1 回	9月 18 日(金) 18:30~20:00	開講あいさつ	宮元地域研究センター長
		映画『美しい夏 キリシマ』 と戦争の記憶	宮崎公立大学 楠田 剛士 助教
第 2 回	9月 25 日(金) 18:30~20:00	江戸時代のリスク回避策と地域社会	宮崎公立大学 大賀 郁夫 教授
第 3 回	10月 2 日(金) 18:30~20:00	異文化理解と宮崎国際観光	宮崎公立大学 李 善愛 教授
第 4 回	10月 9 日(金) 18:30~20:00	地震・津波災害のリスクと防災文化 —インドネシアにおける事例を中心に—	立教大学アジア地域研究所 特任研究員 高藤 洋子 氏
第 5 回	10月 16 日(金) 18:30~20:00	宮崎市の自然災害と地域に おける防災・減災を考える	宮崎公立大学 辻 利則 教授

	地域研究センター設立 10 周年記念定期公開講座 「地域からリスクと文化を考える ー戦争・犯罪・異文化理解・災害の観点からー」	
講座名		
実施期間・回数	平成 27 年 9 月 18 日（金）～平成 27 年 10 月 16 日（金） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分	全 5 回
会 場	宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室	
回	講 師	タ イ ド ル
1	宮崎公立大学 楠田 剛士 助教	映画『美しい夏 キリシマ』と戦争の記憶
2	宮崎公立大学 大賀 郁夫 教授	江戸時代のリスク回避策と地域社会
3	宮崎公立大学 李 善愛 教授	異文化理解と宮崎国際観光
4	立教大学 アジア地域研究所 特任研究員 高藤 洋子 氏	地震・津波災害のリスクと防災文化 —インドネシアにおける事例を中心に—
5	宮崎公立大学 辻 利則 教授	宮崎市の自然防災と地域における防災・減災を考える
受講者負担	受講料無料	
配布資料等	受講のしおり 各講座資料	
募集定員	200 名	
(応募要件)	特になし	
参加者数	受講申込者：108 名 延べ受講者数：307 名（うちアンケート回収 254 名：男性 161 名 女性 85 名）	
【講座風景】		
		
* 第1回講座 映画「美しい夏 キリシマ」と戦争と記憶	* 第4回講座 地震・津波のリスクと防災文化	
【受講者アンケートから抜粋】		
<ul style="list-style-type: none"> ・過去数年受講させていただいておりますが、毎回結構楽しんでおり勉強になります。 ・講座に参加して、やはりこの場に来る事だと思いました。年寄でもすっと入れる講座でした。 ・防災について、再確認した。積極的に参加して、よかったです。 ・5回の講座のうち、4回参加しました。世界の情勢や「戦争」「災害」に対する考え方の参考になり、「人生観」「人間の生き方」に対して勉強になりました。世界環境の安全と生態系の保全の為、「道徳的倫理性」が大切であると感じた。人類皆兄弟であり、自然に対して「自然の中で生かされている」ことを誠に思う。自然災害も我々の教訓であると思う。 		

地域研究センター設立 10 周年記念定期公開講座 (第1回講座 / 全5回)

「地域からリスクと文化を考える - 戦争・犯罪・異文化理解・災害の観点から - 」

実施日時	平成 27 年 9 月 18 日 (金曜日) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分
会場・時間	宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室
受講者負担	なし (受講料無料)
応募要件	高校生以上
配布資料	受講のしおり、講座資料

演題	担当講師
映画『美しい夏 キリシマ』と戦争の記憶	宮崎公立大学 楠田 剛士 助教

講義の概要	黒木和雄（1930-2006）は、少年時代を満州で過ごし、1942 年から宮崎県えびの市で暮らした、宮崎ゆかりの映画監督です。黒木は学徒動員中の 1945 年 5 月、空襲で級友を失い、そして 8 月に敗戦を経験しました。 2003 年に公開された『美しい夏キリシマ』は、黒木の戦争体験をもとにしたフィクション作品です。この映画は、黒木の他作品（長崎原爆投下前日の『TOMORROW／明日』1988、広島原爆三年後の『父と暮らせば』2004）とあわせて、「戦争レクイエム三部作」と呼ばれており、本作の舞台は 1945 年 8 月の宮崎県霧島になっています。宮崎を舞台として戦争を描く、映画『美しい夏キリシマ』という文化メディアは、「地域からリスクと文化を考える」という本講座のテーマにふさわしいと考え、取り上げることしました。 映画の中で「戦争の記憶」がどのように表現されているのか。その表現をどのように読み解くことができるのか。そして戦後 70 年の現在にどのように結びつくのか。そうした問い合わせについて、いくつかの具体的な場面を視聴しながら、みなさんと一緒に考えたいと思います。
-------	--

受講者数	受講者数 : 59 名 (うちアンケート回収 52 名 : 男性 33 名 女性 19 名)
------	--

【講座風景】



*開講のあいさつ (宮元センター長)



*講座担当の楠田 剛士 助教

【受講感想: アンケートから抜粋】

- ・実際に映画を観てなかつたことが残念だった。歴史はくり返すというが、過去の事として終らせてはならないと思った。
- ・戦後 70 年。人の考え方も変ってきたが自然は変わらず美しい。映画の見方を通じて考えさせられた。
- ・本日の講座は改めて戦争を皆で考えてほしい。いい機会でした。
- ・この映画を通して、あらためて「戦争の実相」を知ることができました。適切な説明でした。

地域研究センター設立 10 周年記念定期公開講座 (第2回講座 / 全5回)

「地域からリスクと文化を考える－戦争・犯罪・異文化理解・災害の観点から－」

実施日時	平成 27 年 9 月 25 日 (金曜日) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分
会場・時間	宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室
受講者負担	なし (受講料無料)
応募要件	高校生以上
配布資料	受講のしおり

演題	担当講師
江戸時代のリスク回避策と地域社会	宮崎公立大学 大賀 郁夫 教授

講義の概要	高度文明化した現代社会においても、程度の差こそあれ、地域社会の内的・外的に治安に対する危機は常に存在している。私たちはそれをできる限り回避しようと常に頭を悩ませ、最善の策を講じようと鋭意努力している。江戸時代に生きた先人たちも同じである。いうまでもなく現代と比べて江戸時代は、技術面はもとより生活面での危機—治安や栄養・医療などにおいて、極めて厳しい条件下に置かれていた。そうした環境のなかで、江戸時代の先人たちはどうのうにして降りかかる危機を回避しようとしたのであろうか。地域社会に生きるうえで最も重視された「治安維持」が危機に見舞われた時、もしくは見舞われそうになった時に、江戸時代の人々はどのような方策で危機を乗り切ろうとしたのかを、残された史料から考えてみたい。本報告では、具体的には地域社会の秩序を乱す「イタズラモノ」と、外部から侵入する「ヨソモノ」への対処法について検討する。
-------	--

受講者数	受講者数 : 69 名 (うちアンケート回収 57 名 : 男性 40 名 女性 17 名)
------	--

【講座風景】



* 講座担当の大賀 邦夫 教授



【受講感想: アンケートから抜粋】

- ・江戸時代のリスク管理は結構シビアであったと感じました。百姓と武士の関係が、予想よりも身近で百姓を大事にしていたことがわかりました
- ・江戸時代の地域社会の実情がわかり、おもしろかったです。こういう機会が無いと、全く無関心で過ごしていました。
- ・地域社会の安全と平穏を確保していくことは、今も昔も変わることだと思います。その基本にあるのは、“地域社会としての目”ではないか。そのための人と人とのコミュニケーションが大事では。

地域研究センター設立 10 周年記念定期公開講座 (第3回講座 / 全5回)

「地域からリスクと文化を考える - 戦争・犯罪・異文化理解・災害の観点から - 」

実施日時	平成 27 年 10 月 2 日 (金曜日) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分	
会場・時間	宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室	
受講者負担	なし (受講料無料)	
応募要件	高校生以上	
配布資料	受講のしおり	
演題	担当講師	
異文化理解と宮崎国際観光	宮崎公立大学 李 善愛 教授	
講義の概要	近年は多くのモノ、人、情報の移動で、隣に外国人が住み、外国からの輸入品を毎日食べたり、使ったりしているのが普通になっている。日本は戦後からモノの輸出を主力産業としてきたが、近年は国際観光も主要産業として認識するようになった。2012 年から日本の観光庁は、諸外国との双方向の交流拡大に向けて、日本人海外旅行(アウトバウンド)を促進させ、日本人の国際感覚や国際相互理解を増進とともに、日本に入ってくる外国人旅行者(インバウンド)数の拡大をねらって、大都市を中心に国際観光政策に取り組んでいる。その成果の一部としてイスラム宗教人口の多い東南アジアからの旅行者数が年々増えている。宮崎県でも牛肉や醤油などのハラール認定商品開発で新たなビジネス市場開拓に取り組んでいる。その一方、イスラム宗教や文化に対するステレオタイプや固定観念は強い。こうしたイスラムという異文化理解から宮崎国際観光の新たな可能性を探りたい。	
受講者数	受講者数 : 72 名 (うちアンケート回収 55 名 : 男性 30 名 女性 24 名)	

【講座風景】



* 講座担当の李 善愛 教授



【受講感想: アンケートから抜粋】

- ・インドネシアと宮崎との関わりについて考えるいい機会になりました。異文化理解についても、インドネシア メダン市の訪問の具体例があつて分かりやすかったです。
- ・宮崎への外国人観光客の増加が期待できそうな内容であり、スマトラ島への留学の様子がとても楽しそうだった。とても身になるものでした。
- ・観光業に興味があるので、現在の観光事情や、宮崎観光のことまで詳しく知ることができて良かったです。
- ・宮崎が国際観光に弱い部分を知りました。若者が都会に行き高齢者だけになってしまふかもしれない現状。東京からの移住者は増えてきているが、どれだけ宮崎の良さが若者に伝わるか、また考えを深めるきっかけになりました。

地域研究センター設立 10 周年記念定期公開講座 (第4回講座 / 全5回)

「地域からリスクと文化を考える ー戦争・犯罪・異文化理解・災害の観点からー」

実施日時	平成 27 年 10 月 9 日 (金曜日) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分	
会場・時間	宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室	
受講者負担	なし (受講料無料)	
応募要件	高校生以上	
配布資料	受講のしおり、講座資料	
演題	担当講師	
地震・津波災害のリスクと防災文化 —インドネシアにおける事例を中心に—	立教大学 アジア地域研究所 特任研究員 高藤 洋子氏	
講義の概要	<p>東日本大震災を契機として、災害経験やそこから得た教訓を伝承していくことは災害の記憶の風化防止および防災意識の向上において重要であることが明らかとなった。</p> <p>2004 年 12 月に発生したスマトラ沖地震・インド洋大津波においてインドネシアでは犠牲者が 17 万人以上にも及んだ。しかし、震源に近いアチェ州シムル島での犠牲者はわずか 7 人だった。なぜシムル島では人的被害が少なかったのか。その背景には 100 年前に発生した地震・津波災害の経験が伝承 「Smong (スモン)」 として語り伝えられてきたことがある。「コミュニティはその伝承をなぜ 100 年もの間語り継いでいくことができたのか。」本講座ではそのことについて触れ、他の防災文化（災害経験伝承、石碑、災害モニュメントなど）を紹介しつつ地震・津波災害のリスクと防災文化との関係について受講者と共に考察する。また「災害経験伝承」や「災害モニュメント」が何を象徴しているのか、このことについても共に考えてみたい。</p> <p>さらに、同地震で甚大な被害のあったインドネシア・ニアス島を取り上げ、コミュニティとの協働で同島の伝統舞踊歌「Maena (マエナ)」を活用した防災歌及びダンスを創作し、学校を核として普及する新しい取り組みや、日本とインドネシアの文化を融合した防災教材を用いて実施した防災セミナーの様子も紹介する。</p> <p>地震・津波などによる災害を地球全体の経験として共有することは重要であり意義深い。</p>	
受講者数	受講者数 : 54 名 (うちアンケート回収 43 名 : 男性 25 名 女性 14 名)	

【講座風景】



* 講座担当の高藤 洋子氏



【受講感想: アンケートから抜粋】

- ・災害文化、防災文化について、今回改めて考えさせられました。日常生活に溶け込んだ形で継承していくというのが一番確実な防災教育ではないかと思いました。紙芝居もなかなかよかったです。
- ・災害を伝承文化の中に創作して語り伝えていくことは、大変、大切なことだと思いました。
- ・津波の事を伝承し、高い所に逃げる。これを伝えていかなければならない事を更に感じました
- ・防災に対する認識があっても、災害時とつさに行動できるか不安。今回の講座を受け、日常生活での防災、減災について再確認した。地域活動にも参加し少しでもリスクを減らせるよう心がけていきたい。

地域研究センター設立 10 周年記念定期公開講座 (第5回講座 / 全5回)

「地域からリスクと文化を考える - 戦争・犯罪・異文化理解・災害の観点から - 」

実施日時	平成 27 年 10 月 16 日 (金曜日) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分	
会場・時間	宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室	
受講者負担	なし (受講料無料)	
応募要件	高校生以上	
配布資料	受講のしおり	
演題	担当講師	
宮崎市の自然災害と地域における防災・減災を考える	宮崎公立大学 辻 利則 教授	
講義の概要	<p>東日本大震災から4年6ヶ月。当時、テレビから流れてくる被災地の悲惨な状況に落ち込み、涙した。自分も何かできないかと福島の災害ボランティアに参加し、津波で解体する家の分別(ガラス、木材、きもの、おもちゃ、写真、….)をした。初夏の暑い日、家主が冷たいお茶を持ってきてくれた。そして「ありがとうございます。」とだけ言えた。</p> <p>宮崎でも同じことが起きるかもしれないことを、その時初めて知った方も多いのではないでしょうか？ 東海・東南海・南海地震が連動して起きた南海トラフ巨大地震、想定外では許されないと、これまでの「想定」の甘さを一転、様々な対応が国、自治体、そして地域でも議論されるようになりました。ただ少子高齢化といった地域の課題もあって、対応を難しくしている現実があります。</p> <p>この講座では、宮崎市の自然災害に関する防災・減災における課題をオープンデータ(地図や政府統計など)と呼ばれる公共データやアンケートデータを用いて説明し、今必要な地域での日頃の取り組みは何かをみなさんと一緒に考えてみたいと思います。</p>	
受講者数	受講者数 : 53 名 (うちアンケート回収 47 名 : 男性 33 名 女性 11 名)	

【講座風景】



* 講座担当の辻 利則 教授



【受講感想: アンケートから抜粋】

- ・初めて参加しましたが、目新しいデータの活用など大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。職場で防災関係を担当していますので、地域に密着した活動を行っていきたいと考えています。
- ・人生を主体的に幸福になるために生きる。誰かが何かをやってくれるのではなく、意識的に地域に関わることが、将来の幸福につながると思いました。いたずらに怖れるのではなく、いかに減災するのかが大切であることが分かりました。

定期公開講座ちらし

宮崎公立大学定期公開講座

**地域から
リスクと文化を考える**

—戦争・犯罪・異文化理解・災害の観点から—

本講座は、生涯学習の振興及び文化の向上に貢献することを目的として実施しており、今年度は「言語・文化専攻」の教員を中心に、外部講師1名（立教大学アジア地域研究所特任研究員 高藤洋子氏）を交えての実施となります。皆様方のご参加を心よりお待ち申し上げております。

講座日程・会場等

**平成27年
9月18日～10月16日**
(毎週金曜日・全5回)
18時30分～20時 (受付：18時～)
宮崎公立大学 103大講義室

1回のみの受講も可能です。

各日程のテーマ・講師

第1回	9月18日（金） 18:30～20:00	映画『美しい夏 キリシマ』と戦争の記憶 宮崎公立大学 楠田 剛士 助教
第2回	9月25日（金） 18:30～20:00	江戸時代のリスク回避策と地域社会 宮崎公立大学 大賀 郁夫 教授
第3回	10月2日（金） 18:30～20:00	異文化理解と宮崎国際観光 宮崎公立大学 李 善愛 教授
第4回	10月9日（金） 18:30～20:00	地震・津波災害のリスクと防災文化－インドネシアにおける事例を中心に－ 立教大学アジア地域研究所特任研究員 高藤 洋子氏
第5回	10月16日（金） 18:30～20:00	宮崎市の自然災害と地域における防災・減災を考える 宮崎公立大学 辻 利則 教授

※講座テーマ・内容は一部変更になる場合がございます。

おかげさまで宮崎公立大学地域研究センターは設立10周年を迎えました。

受講料無 料

事前のお申込みが必要です。全講座の詳細及び申込方法については、裏面をご覧ください。

定期公開講座ちらし

宮崎公立大学定期公開講座

地域からリスクと文化を考える

第3回講師：

立教大学アジア地域研究所特任研究員 高藤 洋子氏

講演テーマ：

地震・津波災害のリスクと防災文化－インドネシアにおける事例を中心に－

立教大学アジア地域研究所特任研究員。同志社大学文学部英文学科卒業。その後社会経験を経て立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士前期課程修了。専門はインドネシア地域研究および災害文化研究。主な論文に「災害経験伝承が防災教育に果たす役割－インドネシア・シムル島における事例を通じて－」（社会貢献学会）「災害経験を語り継ぐ防災教育の実践－インドネシア・ニアス島の事例を中心－」（立教大学アジア地域研究所）など。12年間在住したインドネシアの地域研究に従事。特にアチェ州シムル島、北スマトラ州ニアス島の口承文芸と災害文化について研究を進め、地域の文化に根ざした防災教育の確立を目指している。災害救援ボランティアセーフティリーダーとして地域の防災活動にも携わる。



申込み方法(講座期間中も受け付けいたします)

FAX、ハガキ、またはEメールで、①氏名(ふりがな)、②年齢、③性別、④郵便番号・住所、⑤電話番号、⑥受講希望日をご記入の上、宮崎公立大学地域研究センター宛、お申し込みください。お申し込み受付後、受講案内通知のハガキをお送りします。

平成27年度 宮崎公立大学定期公開講座申込書

(ふりがな) 氏 名		年 齡	歳
		性 別	男 · 女 ※○を付けてください。
住 所	〒 —		
電話番号	※連絡が取れる電話番号をご記入ください。 —		
受講希望日	※参加希望日の□にチェックしてください。1回のみの受講も可能です。 <input type="checkbox"/> 9月18日(金) <input type="checkbox"/> 9月25日(金) <input type="checkbox"/> 10月2日(金) <input type="checkbox"/> 10月9日(金) <input type="checkbox"/> 10月16日(金)		
今後本学の行事等に関する案内をお送りしてもよろしいですか。 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ (□にチェックしてください。)			

申込み・問合わせ先



宮崎公立大学 地域研究センター
〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 凌雲会館2階
TEL : 0985-20-4772 FAX : 0985-20-4773
E-mail : mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp
受付時間: 平日9時~17時



おかげさまで地域研究センターは
設立10周年を迎えました!

定期公開講座ちらし

地域研究センター設立10周年記念 定期公開講座

地域からリスクと文化を考える —戦争・犯罪・異文化理解・災害の観点から—

受講料
無 料

日時：平成27年9月18日～10月16日
(毎週金曜日・全5回)
18時30分～20時
(受付：18時～)
場所：宮崎公立大学 103大講義室

広く地域に開かれた大学として、生涯学習の振興及び文化の向上に貢献することを目的として実施している講座です。今年度は、言語・文化専攻の教員を中心に、外部講師1名を交えて実施します。この機会に、本学の講座を体験してみませんか？

講座日程・テーマ・講師

9月18日(金) 18:30～20:00	映画『美しい夏 キリシマ』と戦争の記憶 宮崎公立大学 楠田 剛士 助教
9月25日(金) 18:30～20:00	江戸時代のリスク回避策と地域社会 宮崎公立大学 大賀 郁夫 教授
10月2日(金) 18:30～20:00	異文化理解と宮崎国際観光 宮崎公立大学 李 善愛 教授
10月9日(金) 18:30～20:00	地震・津波災害のリスクと防災文化－インドネシアにおける事例を中心に－ 立教大学アジア地域研究所特任研究員 高藤 洋子氏
10月16日(金) 18:30～20:00	宮崎市の自然災害と地域における防災・減災を考える 宮崎公立大学 辻 利則 教授

※講座テーマ・内容は一部変更になる可能性があります。

お申し込み方法(講座期間中も受け付けます)

FAX、ハガキまたはEメールで、①氏名(ふりがな)、②年齢、③性別、④郵便番号・住所、⑤電話番号、
⑥受講希望日をご記入の上、宮崎公立大学地域研究センター宛、お申し込みください。
お申し込み受付後、受講案内通知のハガキをお送りします。

お申し込み・お問い合わせ先

宮崎公立大学 地域研究センター
〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 凌雲会館2階
TEL : 0985-20-4772 FAX : 0985-20-4773
E-mail : mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp
受付時間:平日9時～17時

平成 27 年度　自主講座

NO.	講座・講師名	講 座 目 的	講 座 内 容	講 座 日 程 等
1	中学 1 年生の 単語で学ぶ英 語の仕組み 福田 稔 教授	基本単語の使い方を 学ぶことで、英語の仕 組みを理解するきっ かけを作る。	英文法は覚えるだけでなく、 理解することも大切です。 中学 1 年向けの教科書に出 てくる英単語を教材にして簡 単な問題を解きながら、(単語 の使い方や英文法用語など)受 講生の皆さんのが英語の仕組み が理解できるようお手伝いを したいと思います。	27 年 7 月 17 日(金) 27 年 7 月 24 日(金) 全 2 回 30 人募集

講座名		基本英単語で学ぶ英語の仕組み			
実施期間 回数	平成27年7月17日(金)・平成27年7月24日(金) 18時30分 ~ 19時30分		全 2 回		
会 場	(学内)【凌雲会館 1階 会議室】				
講 師	(職氏名) 宮崎公立大学 教授 福田 稔				
共催者	なし				
後 援	なし				
その他スタッフ	なし				
受講者負担	なし				
配布資料等	プリント				
募集定員	30 名				
(募集条件)	英語に興味のある方				
参加者数	受講申込者: 26 名(男性: 9名 女性: 17名) 受講者数 : 24 名(男性: 9名 女性: 15名) 受講者のべ総数…(43 名)				
【講座の内容】		【講座風景写真】			
<p>中学1年生で習う基本英単語は、実際は全ての英単語の中でも極めて良く使われる。難しい単語を覚えるより、基本的な単語の使い方を学ぶ方が効果的に学習できる。また、単語の意味は中心的な意味から広がつて行くので、その中心的な意味を学ぶことが重要である。</p> <p>そこで、全ての英単語の中で 16 番目によく使われる on という前置詞を取り上げて、その中心的な意味と、これを用いた表現を、練習問題を解きながら説明した。</p>					
【講師コメント】					
<p>受講生の年齢にばらつきがあり、最初は不安であったが、とても熱心に聞いて頂いて嬉しく思った。 また、質問等も活発に出て、短い時間であったが充実していたと感じた。</p>					

自主講座「基本英単語で学ぶ英語の仕組み」ちらし

宮崎公立大学 自主講座

英語に興味のある方

基本英単語で学ぶ英語の仕組み

宮崎公立大学では、英語に興味のある方を対象とした、全2回英語の講座 “**基本英単語で学ぶ英語の仕組み**” を実施します。

基本単語（中学1年生程度）の使い方を学ぶことで、英語の仕組みを理解し英語を好きにならうための講座です。この機会に受講してみませんか。受講料は無料ですので、どしどしご応募ください。

講師は宮崎公立大学の **福田 稔教授** です。



★日 程 平成27年7月17日(金)・24日(金) 全2回
時間 18時30分～19時30分

★場 所 宮崎公立大学 学内施設

★対象・定員 英語に興味のある方・30人程度 (多い場合抽選)
中高生も受講できますが、保護者の方は送迎をお願いします。
(受講可否の結果を後日郵送します)

★受 講 料 無 料

★申込方法

FAXの場合は、この申込書を0985-20-4773(地域研究センター)までFAX送信してください。
はがきの場合は、はがきに講座名と下記の申込書と同じ内容を書いて、

〒880-8520(住所不要)

宮崎公立大学 地域研究センター「英語講座」係

まで送ってください。



※ 中高生の申込は、保護者氏名と連絡先も記入してください。

※ ハガキまたはFAXにご記入いただいた個人情報の取扱については、適正に管理し本講座の運営目的以外には使用いたしません。

※ 締切り **6月26日(金)必着**

★問い合わせ先 宮崎公立大学 地域研究センター TEL 0985-20-4772

宮崎公立大学 自主講座「基本英単語で学ぶ英語の仕組み」申込書

ふりがな		性 別	年 齢
本人の氏名		男 ・ 女	
住 所	〒		
連絡のとれる 電話番号		(中高生のみ) 保護者氏名	(中高生のみ) 保護者連絡先

◇ 地域研究センター FAX番号 20-4773 へ送信してください ◇